

平和は大切

上田小学校 六年

牧志 玲哉

平和は大切だとぼくは思います。なぜなら、戦争はおそろしいものだから。戦争とは、国と国とがあらそうことです。もし、今ぼくたちの国が戦争をおこしてしまったら、食べ物はなくなり、家族とはなればなれになり、たくさんの人がなくなってしまうです。そんなおそろしい戦争が、今から六十八年前、ぼくたちが住むこの沖繩であったそうです。

その戦争で、ぼくのひいおじいちゃんといひいおばあちゃんは亡くなってしまったと、お父さんのおじいちゃんから聞きました。ひいおじいちゃんは、沖繩戦でみんなといっしょに戦っていたとき、落ちてきたばくだんにやられて亡くなってしまったそうです。ひいおばあちゃんは戦争中に病気で亡くなったそうです。まだ小さかったおじいちゃんは、とつてもなみだを流したそうです。

それからぼくの大好きなおじいちゃん、写真を見せてくれたながら、沖繩のことをほかにもいろいろ教えてくれました。その写真は、戦争のときの食べ物やけがをした人の写真でした。食べ物はこんぺいとうや米でした。でも、草を食べている人もいてびっくりしました。けがをしている人の写真では、足が片方だけの人、うでが半分からきれてなくなっている人がたくさん写っていました。

そんな写真を見てぼくは、戦争ではたくさんの方が亡くなったり、ケガをしたり、病気になるったりする・・・とても悲しくなりました。だから、そんな大変な戦争を乗りこえて今の時代まで生きている人たちは、とつてもすごいなと思いました。

ぼくは、お母さんのおじいちゃん、おばあちゃんにも戦争について話を聞いてみました。すると、小さかったから戦争のことはほとんど忘れてしまったと言われました。でも、おじいちゃんとおばあちゃんは、平和についていっぱい教えてくれました。

平和とは、けんかや戦争がなく、みんななかよく明るい幸せなことだそうです。それは、友達となかよく遊んだり、家族といっしょにおいしいごはんを食べたりすることです。それを聞いてぼくは、戦争で亡くなった人たちも、本当は家族といっしょにいたのだらうなと思いました。ぼくは、家族といっしょにいられることがあたりまえじゃなく、幸せなのだ気づきました。ぼくのお父さんは、ぼくの野球チームのコーチをしてくれます。お母さんは、野球のしあいを見に来てくれます。家族にささえられて、ぼくは大好きな野球をがんばることが出来ます。

また、「おこられることも、平和の一つだよ」とおじいちゃんたちが言っていました。ぼくはよくおこられてしまいます。おこられるといやだなど思っています。でも、おこってくれる人がいるから、正しいことを学ぶことも出来ます。

それから、命のつながりのことも知りました。ぼくの命は、ひいおじいちゃんやひいおばあちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんたちからずつつながってきた大切な命です。平和とは、命がつながっていくことだと思います。

ぼくは、おじいちゃんたちから話を聞いて、平和とはとても大切なものだと分かりました。これから平和をつくっていくためには、国と国が争いをしないことが大事だと思います。そしてぼくたちは、ケンカをしてもすぐなかなおりする、どんな人とも協力していくこと、最後まであきらめないでがんばること、平和をつくっていくと思います。